

# よどピー通信

2009年2月 No.13号  
大阪よどがわ市民生協  
平和グループ 発行  
TEL06-6319-5619

## 舞鶴平和バスツアー

12月2日(火)

### 再び繰り返してはならない戦争の悲劇、悲惨な引揚げの史実を学んできました。

当日は小春日和の良い天気恵まれ、五老ガ岳展望台から舞鶴湾が一望できました。近畿百景No.1といわれる位、それはみごとなものでした。そんな素敵な景色の中にも海上自衛隊の燃料貯蔵庫や火薬庫などが着々と作られていることを、ガイドの舞鶴平和委員会の橋本安彦氏から伺い、憤りをおぼえました。三條棧橋から船に乗り、護衛艦・ヘリ基地・浮島丸事件など船上から説明を聞きました。大きな護衛艦「あたご」を目のあたりにみて、怖さを覚えると同時に、人間の愚かさを感じました。そこにはわれわれのたくさんの税金が使われているのです。そんなことは必要なのでしょうか。いま、くらしが大変な中つくづく考えさせられます。わたし達の知らないところで、戦争準備が行われようとしている現実を見た思いです。やはり、なんとしてでも、憲法9条は守らないと心に刻みました。昼食は橋本氏が予約し



この「よどピー通信」は「くらしと食の安全・安心は平和な社会から」を大切にしている大阪よどがわ市民生協・平和グループの取り組みや情報を紹介する場を目指して発行しています。ぜひ読後のご感想やご意見をお寄せください。



ておいてくださったほのぼの屋で美味しい定食を頂きました。昼からは引揚記念館を見学しました。“母は来ました、今日も来た”岸壁の母の歌とともに全国に知られるようになった、多くの喜びと悲しみのドラマがそこにはありました。もう二度とだれもが経験したくありません。記念館が民間の手で維持されてきていることも知りました。残してほしい建物です。国で保存してほしいものです。帰途に着く前にとれとれセンターにより、今晚のおかずやおみやげを購入しました。

今回抽選にもれて参加できなかったみなさまには、大変ご迷惑をお掛けいたしました、ほんとうに申し訳ありませんでした。

これに凝りずにまた申し込んでくださいね。

### 参加者の

### 感想

- 舞鶴を訪れて、あらためて平和の大切を感じました。平和ボケにならないためにも平和学習を継続していきましょう。
- 橋本先生の説明で東舞鶴と西舞鶴の違いなどわかり、お昼ご飯も美味しかったし、とても楽しい平和学習でした。
- いつ戦争に進んで行っても、おかしくない事実の恐ろしさを感じました。
- 天気も良く一度は行きたいと思っていた舞鶴を見ることができました。日程的にも時間のゆとりがあり良かったです。
- 自衛隊のイージス艦を目の前に見て胸がふさがる思いがしました。(他、たくさん寄せられました。ありがとうございました)

## 《父母から聞いた戦争体験の話》をご紹介します

### 父の話してくれたこと (吹田市山田東・Sさん)

1910年生まれの父が亡くなり8年になります。享年90歳でした。6人兄弟の末っ子のわたしに添い寝して戦争の体験記をはなしてくれましたが、幼かった私には余り理解できず、子守唄の感覚だったのかもしれませんが。私が成人してからは、父は戦争のことは殆ど語ろうとしなかったし、こちらからも聞き出すこともありません。1931年の満州事変から太平洋戦争にかけて21歳からの人生の一番活力ある時期を180cm・90kgの体力の父も肉体的・精神的にボロボロにされたのでした。満州の体験は、想像を絶するものであり、父は戦地で精神異常をきたし入院したのです。そんな精神までも病む厳しい経験した父は、おそらく墓場までその思いを持っていく気持ちで詳しい事は語らなかったのでしょう。終戦2ヶ月後、父が帰って来るとの連絡を受け、母はたとえ手足がなくてもいい、生きてさえいてくれればと、万が一の事を考えリヤカーに布団を敷き迎えにいったが、汽車から降り立った父にしっかり手足がついていた姿を見た時は、鳥肌が立ったと語っていました。軍服は蚤と虱で裏の畑で燃やしたそうです。戦争が終わってからも戦友の親族が消息を尋ねて来ていたことを幼いながらも私は、はっきりと覚えています。戦友の最期を父はどうしても言えなくて、離れ離れになってしまったと言葉を濁していたようです。父が戦地に出征している期間に、母は幼い長男を十分な医療を受けられず亡くしています。これも国民の命を大切にしない、戦争政策の犠牲者だと思います。自分の夫が戦地に取られ、愛しいわが子を失った母は、さぞ無念だったに違いありません。私は、憲法9条の改悪の企みに騙されず、父母の語った思いを受け継いで、戦後63年の平和の礎となった、憲法9条のすばらしさを広げていきたいと思っています。

## 平和 ワンポイントレッスン PART13

「子どもたちの未来のために核兵器のない世界を」

国際署名って？

広島と長崎に原爆が投下された6日と9日に、それぞれの行政区で核兵器のない世界を願って「国際署名」を集めています。『国際署名』は、昨年8月に広島に集まった世界の人々が呼びかけました。ノーベル賞をもらった益川さんや元野球選手の張本さんも賛同者です。来春2010年に開かれる核兵器をなくすための国際会議(NPT再検討会議)にむけて、国連に提出します。

「一本の鉛筆があつたら私は平和と書く」

美空ひばりの唄より

2009年  
平和グループの抱負

☆ 平和と戦争について、知らないことを学び続けます。体験したことは、伝える努力をします。(Y・K)

- ☆ やさしさとしなやかさを持って、真実を追求しよう。(Y・M)
- ☆ 世の中を変えるチャンスだけど、寸暇を惜しんでも、たくさん映画をみたいなあ。(H・S)
- ☆ 憲法9条と地球環境を守る努力をしていきたいと思っています。(C・Y)
- ☆ 今年こそ見て学んで行動に(S・Y)
- ☆ 出来る限りに多くの平和活動に参加したいです。(S・K)
- ☆ あいちゃんの100回公演をめざして(E・T)
- ☆ その他エトセトラ